

## 香港から 新年快樂！恭喜發財！

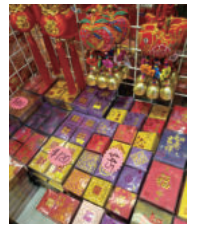
NPO法人日本香港協会(東京)会員 福嶋 美咲 (香港在住)

香港では毎年11月あたりから、恒例のクリスマスイルミネーションが輝く季節となります。そのクリスマスも終わって1月1日が過ぎる頃、街は「年末ムード」一色に。スーパーマーケットでは赤色の装飾で染まり、春節用のキャンディーやクッキーの箱が山のように積まれます。またお飾り用のグッズもずらりと並んで、「そろそろ春節だなあ」と感じさせてくれるのです。

日本では1月1日がお正月ですが、香港ではこの春節が新しい年の始まりです。春節は多くの香港人が海外旅行に出かけるシーズンで、エアチケットの価格が高騰します。そのため、我が家では概ね静かに家族と過ごすことにしています。ですが、のんびり過ごす春節も、その準備はなかなか忙しい！春節近くになると現れる路上のお年玉袋販売で袋を購入します。そして遅くとも2週間前には銀行へお年玉用の新券を手配しにいけます。ギリギリでは新券が手に入らないからです。お年玉をあげる相手によって、10ドル、20ドル、100ドル、500ドルと袋に入れる作業も時間がかかります。最近はお年玉をモバイルペイメントであげる人も増えていると聞きました。

そして、いよいよ春節。我が家のあるアパートでは、毎年春節2日目午前には獅子舞があり、子どもたちには大人気です。去年は招かれた知人宅でLEDライトの獅子舞を初めて見ました。伝統的行事の中にも時代の進歩が窺えます。また普段はあまり見ないローカルテレビですが、番組の間に春節特有の音楽が流れたり、芸人が拱手(こうしゅ)の礼をしながら「恭喜發財！」と挨拶したりするのを見るうち、我が家もすっかり春節ムードに包まれていくのです。

そんな中でも、アパートの守衛さんにもお年玉を配る気配りを忘れてはいけません。こうしておくことで、後々に何かと便宜を囷ってもらえるという狙いもあります。そして、春節明け出勤日初日、会社では朝からお年玉袋のやりとりが飛び交います。会社から従業員たちへ、上司から部下へ、年配者あるいは既婚者から独身者へ。仕事はせず挨拶とお年玉配りだけで午前中を終わる人もいます。このお年玉を配り終えると、今年の春節も無事に終わったなと感じるのです。



路上販売のお年玉袋は値段もピンキリ



時代を感じさせるLEDライト獅子

2020年1月発行(禁断転載)

### 目次

香港から 新年快樂！恭喜發財！	1
1967	2
「第20回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告	
香港フォーラム・サイドトリップ「東莞市・仏山市」	4
ビジネスセミナー「日本と香港、さらなる飛躍へのパートナー」	6
香港：盛況なビジネス活動、揺るぎないファンダメンタルズ	7
各協会便り	
東京：第1回法人会員交流会開催	8
関西：香港中秋節パーティー開催／文化部セミナー開催／法人会員交流会開催／昼食セミナー開催／香港ビジネスセミナー(京都)開催	9
中京：秋季セミナー「香港から世界を目指している日本人」開催	10

九州：令和元年度通常総会・講演会・懇親会を開催	
香港城市大学専上学院 福岡夏季研修プログラムの開催	11
山形：マーガレット・フォン香港貿易発展局総裁との交流会を通じて	12
北海道：アグリ・フードプロジェクトと香港貿易発展局セミナー	
「香港の最新情勢と食ビジネス環境の展望」セミナー	13
宮城：秋田県「竿燈祭り」研修会開催	
秋の文化教室「中国茶教室」開催	14
沖縄：沖縄日本香港協会総会開催	
港珠澳大橋体験	15
広島：香港ビジネスセミナーの開催	16
新潟：待望の香港直行便が新潟にも就航	17
高知：明けましておめでとうございます。新年好！	18

## NPO法人日本香港協会（東京）元理事 塚本 勝弘

**◆半世紀前の香港**

最近、朝日新聞の夕刊に週1回の頻度で特定年次を見出しとして掲げ、その時代の世相や特記事項などを再現している。昨秋1967年の記事を読んだ。そこで、徒然なるままに自分はいったい何をしていたのだろうかと回顧してみた。

実は、香港に駐在中で夏場には中国本土で燃え上がる文化大革命を背景に反英暴動が勃発し、市内中心部では連日デモが行われていた。筆者の勤務先は皇后大道中（Queen's Road Central）に面したビルの4階であったから正に騒動を眼下に見下ろす場であった。然し当時の香港市民の政治意識は低く、デモの参加者は左翼系労働組合員にかぎられていたから、基本的な日常生活には殆ど影響せず朝夕の通勤も正常で、特別な勤務体制を講じた記憶はない。5年前の雨傘運動や直近の「逃亡犯条例」改定阻止活動とは雲泥の差であると言わざるを得ない。但し、これが英国香港政庁の統治政策を多少なりとも柔軟化する契機になったことも否めない。

一方、英ポンドも弱体化し、この秋には長年維持されていた対米ドル換算レート（2.8米ドル/英ポンド→360×2.8=1,008円/英ポンド、63円/HKドル）も確か20%前後の大幅切り上げが実施され、輸入品価格は軒並み上昇し市民生活を圧迫するに至った。以上が、若輩に限られた視点から見た香港の一角である。

**◆カーフェリー・人力車**

正確な駐在期間は、1964年5月～1968年1月だったので、上記以外に当時の香港では極めて普遍的な存在であったが、現在はその影も残していない風景について若干思いつくままに羅列を試みる。

先ず最初にとりあげるのは、カーフェリーである。当

時は海底トンネルが完成する以前で、香港島と九龍側を結ぶ貨物の唯一無二の移動手段であった。人間を運ぶフェリーも台風が通過するときは運航停止となるので、一旦出勤後台風の接近が警告されると帰宅準備に入り、出勤前に運航停止が確認できれば台風休暇の恩恵にあずかったものだ。

それと、当時はまだ人力車が結構活用されていた。繁華街やフェリーターミナルには客を待つ人力車が見られた。考えてみれば、すぐその場で乗れて目的地の真ん前まで運んでくれるのだから、便利なことはこの上もない。実はそのみか、もう一つの隠し技があったのだ。筆者の勤務先でも商品は事務所内に備蓄されていたが、客先から少量かつ急ぎの注文が入ると、ボーイが表の大通りへ飛び出してゆき、空の人力車を呼び止め、注文品と一緒に乗り込み客先までお届けするというシナリオに他ならない。

**◆水上レストラン・飲茶**

沙田（Sha Tin）は今やニュータウンの中核であるが、当時はほんの小さな鄙びた寒村に過ぎなかった。それでも時たま人々が訪れる理由の一つは名物の鳩料理を賞味するためである。ある時、新聞紙上に“鳩料理値上げ”なる記事が掲載されたことがある。一体なんぞやと本文に目を通すと、直近に襲来した台風で鳩小屋が損壊し飼育中の鳩が多数散逸したことが原因とのことであった。それまで筆者は鳩の供給源は自然の天空かと勝手に憶測していたが、実際には人為的に飼育していたことを知り、香港人の食に対する飽くなき関心の高さに驚嘆した覚えがある。

又、当時は吐露港（Tolo Harbour）が居住地のすぐ近くまで入り込んでおり、なんとそこには水上レストランがあったのだ。香港の海鮮料理で評価の高い生エビを茹でて辛みソースで食べる逸品を初めて口にしたのはそこであった。その後、周辺部の再開発計画の進行に伴い、かつての海面の大半は埋め立てられてしまい、水上レストランもその姿を消した。今や、水上レストランと言え、一元的に香港仔（Aberdeen）所在のもの相場が決まっているが、かつて沙田にあったものとの相関関係は如何？

これなしには香港版の“るるぶ”は完結しない飲茶で締め括りしよう。但し、その本質はその表現どおり喫茶であり食事ではない。

昔からの風習として、飲茶を供する店は夜明け前のまだ暗いうちから戸を開



人力車は交通機関から観光用になった。2004年の中環にて（撮影：小柳淳）

ける。早起きの老人たちはそれを待って三々五々集まり、周りの人々と世間話に興じながら少なからぬ時間を過ごすのを日常とする。その間、純粋にお茶だけでは手持無沙汰であろうし、徐々に小腹もすいてくるのに合わせ、適宜お茶受けも供するようになる。時と共に、風習も変化しどちらかと言えば、軽便なる昼食の代表的存在化を遂げたものと思われされる。

当初はうら若い少女たちが駅弁スタイル宜しく、食品を並べた台座を肩にかけて客席の間を売り歩く姿が今でも髣髴として眼底に浮かび上がってくる。それが、彼女ら若年労働力の不足に伴って、中年のおばさんが押すワゴン車サービスにとってかわられ、さらには注文書に希望品目を記入して事前に手渡す現代方式に変貌してしまったのは、返す返すも残念至極であるが、日常茶飯の終着駅とあらば、やんぬるかなである。

#### ◆広東語・電文

蛇足ながら、昼食軽便版の一形態を追記する。

筆者赴任後しばらくの間、多忙を極め寸暇を惜しむ日常に加え、地理不案内のため外部での昼食を躊躇っている様子を見かねたボーイが、近隣のレストランのメニューを持ってきて注文しろと宣う。得たりとばかり、これに応ずると程なく出前が届く。たった一品、それも精々1~2ドルの安物にも関わらぬ迅速サービスである。お気に入りの定番は、咖喱蝦球（カレイハーカウ）＝海老カレーである。かなり大ぶりの海老のぶつ切りがわんさと首を並べているのは、当時日本では我々安サラリーマンの口にはめったに入らぬ高級食材であったから、感激ひとしおの一幕であった。

こうした代行発注の際、ボーイの電話の最後は必ず「セーレンチャビー」の一言で終わる。そこである日、ボーイに「あれはどういう意味？」と尋ねたところ、回答は「407B」つまり、配達先である事務所の部屋番号に他ならない。その程度の簡単な語句も理解できないのが、残念ながら筆者の広東語能力であった。

本来、そろそろ筆を置くべき段階であるが、まだ若干



ビクトリア・ハーバーを往き来する大型のカーフェリーは1990年代までは多数航行していた。1993年（撮影：小柳淳）

紙面のスペースが残っているので、余談をもう一題。

当時、東京本社との連絡は、まだテレックスもファックスもない時代で、国際電話は申し込んでもいつ繋がるが見当がつかず料金も高額であったので、専ら電報に依存していた。

電報は、配達までの所要時間の長短に応じて1) 緊急 (urgent)、2) 通常 (ordinary)、3) 書信 (LT=letter telegramの簡略語?) の3段階に分かれていた。いずれも、語数×基本単価で料金は決まるが、問題は語数計算にある。標準的な英語語彙を前提とするが、日本語はそのままでは送信不可であるのでローマ字化が必要である。一語の許容限度は15文字である。そこで一工夫する。電報はCable & Wirelessと称する英系企業の独占であったが、窓口の中国人は経営の効率・収益には無関心で、与えられた仕事を形式的にこなせば事足りる主義であったのが盲点だった。例えば、「これいくらですか」は文法上では3語であるが、「KOREIKURADESUKA」とすれば目いっぱい15文字で1語として通用することを知り、悪乗りが常習だった。

あれから53年

徒食に耽った厚顔の老爺



(撮影：小柳淳)

## 「第20回香港フォーラム」 & 「全国協会交流会」開催報告

日本香港協会全国連合会 事務局

### ◆11年連続“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞！

去る12月3日・4日、香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Association Worldwide／本部＝香港貿易発展局内）の世界大会「香港フォーラム」が、香港コンベンション&エキシビション・センターにて開催されました。記念すべき20周年を迎えた今回は、全世界から約300名の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今回のフォーラムは、香港が直面している困難な状況の中、参加者数が例年を下回る結果となりましたが、日本全国からの参加者は総勢60名を数え、国別での参加者数では2位のアメリカを大きく上回り、世界一の栄誉に輝きました。その結果、11年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

また、各協会の活動に対する表彰式では、世界各地からの多数の応募の中から、アジア・オーストラリア地域において、会員増加数が最も大きかった協会に贈られる「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード」のグランドプライズを高知日本香港協会が受賞しました。今回で設立3年目を迎えた高知日本香港協会は、今回の香港フォーラムで連続3度のアワード受賞という快挙を達成、全世界の協会メンバーの面々から喝采を浴びました。

例年どおり、2日間の会期中には、ビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。初日冒頭のセミナーでは、「広東・香港・マカオ大湾区における香港のビジョン」と「大湾区から生まれる新たなチャンスを香港を通じて掴む」と題して香港の新たな地理的優位性について、「スマート・グリーン・リビング」をテーマとしたセミナーでは、インターネット技術がもたらす事業機会について、また昼食講演会では「ライフスタイルとクリエイティビティーハブとしての香港」と題して、東洋と西洋の文化が交わる香港の持つ独特且つ活気溢れる地域特性について語られました。

2日目のアワード表彰式の後、会場を移して香港貿



フェアウェル・ディナーにて11年連続でベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会



香港貿易発展局上席副総裁を囲む各地日本香港協会代表者の面々

易発展局主催の「アジア電子商取引サミット」に参加。その後の昼食講演会では、香港特別行政区政府のキャリー・ラム行政長官が登壇、香港の現状とこれまでの経緯について、自らの言葉で参加者に語りかけました。同日午後のオプション視察ツアーでは、“The Mills”、“Asia Society Hong Kong Center”、“HKEX Connect Hall”の中から、各々自由に選択したプログラムをガイド付きで楽しみました。

同日夜のフェアウェル・ディナーでは世界中のメンバーが一堂に会し、国際色豊かな交流を通じて楽しいひと時を過ごしました。

### ◆全国の協会メンバーが香港に集まりました

香港フォーラムの前日、12月2日には、「ビクトリア・ハーバー・スプリーム」において第12回全国協会交流会が開催されました。また、交流会に先立ち、第8回日本香港協会全国連合会総会が開催され、昨年一年の活動を振り返るとともに、今年の新事業計画が討議されました。全国交流会では本年度の幹事協会である山形日本香港協会事務局の長沢侑氏の進行のもと、原田光夫全国連合会会長の開会挨拶、在香港日本総領事館和田充広大使兼総領事の来賓挨拶、香港貿易発展局BRE部ダイレクター、アイリス・ウォン氏の乾杯の挨拶で幕を開けました。

終始なごやかな雰囲気で行われた交流会は香港貿易発展局東京事務所長伊東正裕氏による、翌日から開催される香港フォーラムについての説明の後、香港貿易発展局日本首席代表兼日本香港協会全国連合会事務局長サイラス・チュー氏より、このような情勢の中、今年の香港フォーラムへ参加いただいた一人一人の皆様、



「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード」を受賞した高知日本香港協会のメンバー

深い感謝の意が日本語で述べられ、大きな拍手とともに幕を閉じました。

全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今回も70名の方に参加頂き大盛況の会となりました。

是非今年も、今回お越しいただけなかった皆様にもご出席いただき、メンバーとの交流、ネットワーキングを深めていただければと思います。

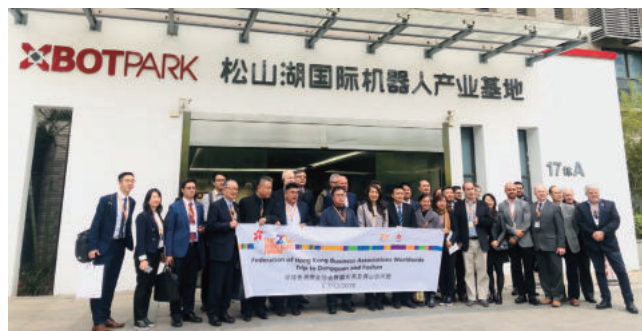


日本香港協会全国の協会のメンバーが香港に集まりました

### 香港フォーラム・サイドトリップ「東莞市・仏山市」 日本香港協会 副会長・広報委員長 藤澤 慶彦

香港フォーラム終了後の12月5日から7日まで大湾区の2都市である東莞市と仏山市を訪問した。今回は香港貿易發展局華南主席代表マンディ・ウン氏と環球香港商業協会代表デニス・チュー氏の2人の団長の下に、アメリカ、イギリス、インドネシア、オーストラリア、オランダ、カナダ、シンガポール、チリー、ハンガリー、フランス、マレーシアそして日本から総勢35人が参加した。先ずバスで深圳經由東莞市に入り翌日に仏山市を訪問した。それぞれの市政府の幹部から熱烈歓迎と経済発展の丁寧な説明があった。奇しくも両市はそれぞれ800万人の人口を有して特徴ある発展を続けている。例えば東莞市が電子回路の製造を得意とすると、仏山市は温調器のデジタル化を特長としている。

大湾区は両市の他に香港・深圳を窓口として珠海・中山・広州・澳門の各市を加えて合計8都市から成っており、人口は7,100万人で面積は全土の0.6%しかないにも拘わらずGDPの13%を占めている。中国経済発展の屈指の原動力のひとつである。その役割分担は、大きく分けて香港は金融・物流・低関税の機能を担い、深圳は研究開発機能中心になっている。それによって他の6都市は後方支援の生産基地化してきている。因みに華為（技術）は最近深圳には本社機能のみを残して、工場は東莞市に移すことを公表した。しかも大湾区の中での生存競争は熾烈を極めていいる。中国でトップになれば世界一になれるという望みを以って若い人



材の育成に惜しみない努力をしている。最早中国はモノ真似上手の域を脱して、AIや5Gを活用して創造性志向を強めている。その意味で香港の将来は今回のように政情不安になったとしても、経済的に中国政府は香港の機能を必要としており、大湾区内での地縁や血縁（同族性）を考えると明るい方に向かうと思われる。むしろ熾烈な競争環境下にあつて日本企業が中国の内外に進出する余地は少なくなっていることが危惧される。逆に仏山市の美的集団のように日本市場に進出するケースが増えてくると思われる。

帰路に最近開通した広州南—香港西九龍間の高速度鉄路に乗車した。香港までわずか1時間である。予想通り明らかに日本の新幹線技術を採用していた。予想外であったのは、先ず広州南駅の広大さであった。羽田の国内・国際線ターミナルをひとつにしたような巨大なドームの下に、電光案内と店舗が立ち並び中央には無数の椅子が置かれている。大人でも迷子になりかねない。人口が日本の10倍もあるだけに規模が違う。もうひとつ、切符に名前とID番号が印刷されていた。飛行機の切符と同じで、自由席はなく列車での移動も登録制になっている。これが中国人には不自由ではなくどうやら当たり前らしい。



#### □サイドトリップ行程

第1日	午前	香港—深圳經由東莞市（バス） 生益科技訪問
	昼食	香港と現地企業のネットワーキングランチ
	午後	松山湖機器人基地訪問
第2日	夕食	東莞市政府による歓迎夕食会
	午前	東莞市—仏山市（バス） 仏山市政府表敬訪問
	昼食	仏山市政府による歓迎昼食会
第3日	午後	周大福珠寶文化中心訪問 美的集団訪問
	夕食	カジュアルディナー
	午前	三山新城奥港澳科技展示交流訪問
第3日	昼食	カジュアルランチ
	午後	広州南—香港西九龍（高速鉄路）

## ビジネスセミナー「日本と香港、さらなる飛躍へのパートナー」

NPO法人日本香港協会 理事 香港貿易発展局 東京事務所長 伊東 正裕

令和元年9月27日(金)、NPO法人日本香港協会と香港貿易発展局は、都市センターホテルにて、ビジネスセミナー「日本と香港、さらなる飛躍へのパートナー」を共同開催致しました。本セミナーは、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部、香港投資推進局（インベスト香港）、日本貿易振興機構（ジェトロ）、中小企業基盤整備機構、ニュービジネス協議会連合会、日本商工会議所の後援を得て、113企業・団体、152名の参加者を集め、大盛況のうちに幕を閉じました。

セミナーでは、冒頭にNPO法人日本香港協会の原田光夫会長、香港貿易発展局サイラス・チュー日本首席代表からの挨拶がそれぞれあり、続いて「香港：国際化へのベストパートナー」と題して、香港および中国本土でのビジネス経験を豊富に持ち、事業コンサルティングには定評のある水野コンサルタンシーグループ代表の水野真澄氏が基調講演を行いました。水野氏は、ビジネスセンターとしての香港とシンガポールの違いについて、後背地の差（中国とアセアン・インド）に加え、税制（香港はVATなし、シンガポールはVAT 7%）の差に起因すると指摘、海外企業にとってのメリットという観点から、香港の優位性は揺るがないと説明しました。また、香港における民主化デモに関して、中国本土側と香港側の見え方の違いがあるのではないかとの見解を示しました。実際に、1998年のアジア金融危機の際に、中国本土政府は香港との間で経済貿易緊密化協定（CEPA）を締結し香港を通じた対中貿易の活性化を図り、2003年のSARS流行の際には、中国本土から香港への個人旅行の規制を緩和して中国本土の富裕層を香港に呼び込む形で消費経済の底上げを図りました。中国本土側から見れば、これらは香港に対する「救済措置」であったということになるわけですが、香港側から見れば自らの領分を「浸食された」という見え方になり、この双方の認識のギャップが香港の民主化活動の遠因ではないかと述べました。



基調講演

その後のパネルディスカッションの部では、日本—香港間のビジネスに現に携わっているビジネスパーソンをお招きし、ディスカッション形式で多角的な観点から様々な議論が展開されました。パネリストの構成は、日本を代表してブルーイノベーション株式会社取締役（元バンダイ）の野島威氏と株式会社イントゥ代表の小松崎友子氏、香港を代表してMX Supply Chain Ltd.（マキシムグループ）のケルビン・シャム氏とKing Enterprise取締役社長のアイバン・ワン氏の計4名、モデレーターは私が務めました。日本人パネリストからは、日本から見た香港のビジネス活用のメリット、香港人パネリストからは、香港から見た日本の食品・観光インバウンド・その他サブカルチャーなどのコンテンツがいかに香港はじめ中華圏で受け入れられているかについて、ご自身のご経験についてご披露いただきました。各パネリストともに、日本と香港が良きビジネスパートナーとして相互補完的な関係であること、日本企業の海外展開にはアジアや世界に幅広い強固なネットワークをもつ香港企業と更に協力していくべきという見解では一致していました。そういう意味では、海外進出を考えている日本の中堅・中小企業やベンチャー企業・スタートアップ企業にとりましては、まさに「Think Global, Think Hong Kong」～海外展開は先ず香港から～というメッセージが伝わったものと思われます。

また、セミナー終了後の懇親会では、引き続き大勢の方が参加され、幅広い業種を背景にもつ参加者が、日本と香港という共通項のもと、活発な意見交換と交流が繰り広げられました。本イベントは、日本と香港の更なる経済・文化交流の促進と発展への契機となっただけでなく、NPO法人日本香港協会としましては、新規会員獲得にも繋がる有意義なイベントとなりました。



登壇者、主催者代表の方々

## 香港：盛況なビジネス活動、揺るぎないファンダメンタルズ



香港では6月以降、社会の緊張が続いており、海外メディアでは主に抗議活動に焦点を当てた報道がなされています。しかしながら、香港においてはビジネス活動は平常通り行われております。この点は重要であり、皆さまにメディアを通じた情報とは別の視点

で現在の香港のビジネスの状況をご理解いただきたく存じます。

香港には順応性が高く回復力が強いという社会的な特長があります。さらに重要なことに、そのファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）は現在でも確固として揺るいでおりません。香港は自由で開放された経済システムを備え、完備された法制度、国際ビジネスへの積極的な姿勢を有しています。

株式市場、貿易、法制度、金融システム、国際的な物流ネットワーク、公益サービスやその他重要サービスといった経済の主要な要素は現在も滞りなく機能しております。また、情報、ヒト、モノ、資本の流れ（フロー）もスムーズに行われています。

このところの出来事にもかかわらず、香港は依然として都市の競争力や経済自由度といった指標で世界トップクラスにランクされています。2019年9月にカナダのフレージャー研究所が発表した「経済自由度調査」で香港は首位に立ちました。10月に世界経済フォーラム（WEF）が発表した2019年版「世界競争力報告」で香港は、前年の世界7位から同3位に上昇しました。

国際通貨基金（IMF）は12月初めに発表したIMFスタッフによる公式訪問の「ミッション終了に当たっての声明」の中で、香港の柔軟な金融制度、通貨ベッグ制、慎重なマクロ経済政策の歴史を評価し、こうした要素が現在の経済情勢に対処する上で有力なバッファーになっていると指摘しました。

ビジネス活動も引き続き盛況です。2019年11月には、中国電子商取引（EC）大手のアリババ集団が香港証券取引所で新規株式公開（IPO）を行いました。これは昨年のIPOでの資金調達額として世界2位の規模です。また、ビール世界最大手アンハイザー・ブッシュ・インベプ（ベルギー）のアジア子会社は9月に香港でIPOを行い、昨年のIPOとして世界4位の規模となりました。

香港貿易発展局が2019年に予定していたイベントはすべて予定通りに開催されました。7月から11月にか

て開催した18のイベントはいずれも盛況で、『「一带一路サミット」には世界60カ国・地域から財界・官界のリーダー5,000名が参加しました。そのイベントのうちのいくつかは業界内で世界最大規模のものです。これら18のイベントには世界各地から合計でバイヤー約15万6,000人、出展者約9,600社が参加しました。12月にはスマートビジネス、フランチャイジング、デザインに関する3つの展示会と電子商取引、IP（知的財産）に関する2つの国際会議を開催し、2019年のイベントがすべて終了いたしました。

安全確保は香港貿易発展局にとり最優先の課題です。セキュリティの強化、参加者の移動やその他各方面でのサポート体制も拡充されています。今年初頭に開催するライセンス、玩具、ベビー用品、文具、ジュエリー、映像コンテンツなどの分野の展示会や、金融、マーケティングなどに関連する国際会議では、さまざまな特別措置を講じます。

香港貿易発展局は過去半世紀以上にわたり、香港のビジネスコミュニティを支援する活動を続けてまいりました。その過程では、1990年代後半のアジア金融危機、2003年の重症急性呼吸器症候群（SARS）、2009年の世界金融危機など、さまざまな困難にも見舞われてきました。そうした時期と同様に、米中貿易戦争と香港の社会状況のさなかでも、香港における内外のビジネスコミュニティを支援しております。

世界50都市に展開する海外事務所のネットワークをいかし、香港を通じてさまざまなビジネスが世界の新市場を開拓するとともに、「広東・香港・澳門大湾区」構想や「一带一路」構想などに伴う域内外でのビジネスチャンスをつかむことができるよう努めます。

香港貿易発展局は皆さまが香港という投資と貿易の多面的なプラットフォームを活用し、アジアと中国本土、その他世界各地でビジネスを創出できるよう、これまで以上に尽力いたします。さらに、イノベーション、テクノロジー、クリエイティブに関連する産業の育成を図り、スタートアップ支援および中小企業支援に今後とも積極的に取り組んでまいります。

香港貿易発展局 日本首席代表  
朱耀昌（サイラス・チュー）



## 第1回法人会員交流会開催

当協会は2019年11月19日に第1回法人会員交流会を開催いたしました。

現在、当協会の法人会員数は理事、関係者の努力や香港貿易発展局のご協力のお蔭で既に2019年11月末現在30社となっております。当協会としてはこの交流会を、協会の活動を支えていただいている法人会員様とのコミュニケーションの場とし、同時に法人会員間の情報交換、相互理解をも実現し、前向きのビジネスチャンスをも探して行くことを目的としています。

当日はバラエティに富んだ会員相互の紹介から始まり、試みとして会員2社による自社の香港関係の業務の詳しい紹介をいただき、他の会員の参考に供されました。その後、世界に注目されている最近の香港のホットな現状に鑑み、様々な角度からの広く深い情報交換がなされましたが、中でも前日香港から帰国された会員からは現状に関し大変フレッシュな情報の提供があり、その後出席会員から大変有益であったとの評が伝わってきました。

振り返ると、当協会は1988年に初めて任意団体として設立され、2002年NPO 法人日本香港協会として新たに東京都に認可され、現在に至っております。この間、当協会の幅広い活動を支えてこられたのは言うまでもなく個人会員と法人会員です。設立以来一貫して日本と香港の間の親善・文化交流、ビジネス交流を行って参りました。親善・文化交流は主として広東語教室、ドラゴン



ポートレース、クリスマス会、七夕の会、留学生の交流などで、国内の会員や日港間の交流にも努めております。ビジネス交流では様々な講演会の開催、ビジネス座談会や二松学舎大学と共同でChinese Management & Marketing School講座を開いておりますが、ここに新たに法人会員交流会という活動が加わりました。

法人会員は香港の準政府系機関、日本の大小様々な規模の多様な企業、香港の企業からなり、業種は、航空会社、銀行、ホテル、流通、メーカー、小売販売等多種多様で、実に多彩であり、この交流会は香港を軸とした広い異業種交流の様相を呈しておりました。ここまで多種多様な法人会員が増加した背景には、香港経済の発展とヒンターランドとして巨大な中国市場を持っている事からいまだに香港進出を果たそうとする会社が多いこと、それに伴い当協会が発信する情報や会員同士の出会いへの期待があります。

香港には様々なチャレンジングな状況が起こります。一貫して冠たるアジアのファイナンスセンター、中国へのゲートウェイとしての重要性、アジアの金融・ビジネスハブ、人口750万人の巨大消費市場は厳然として存在し、日本のビジネス界の注目度も変わりません。ビジネスの展開には一見関係の薄い様々な規模の企業による情報交換がきっかけとなり、有効な助けと成り得ます。この法人会員交流会によりそれに類する機会を提供できることは大変喜ばしい事と考えております。今後も継続して開催し、内容を充実してゆく所存であります。







## 関西日本香港協会 事務局

### 香港中秋節パーティー開催

当協会では関西と香港の経済・文化交流を目的に毎年様々なイベントを開催しています。2019年も会員相互の懇親を目的に香港中秋節パーティーを去る9月18日に中華料理「錦城閣」で開催し、56名の参加者がパーティーを楽しみました。

中国伝統行事の中で、旧正月と並び香港市民の生活にしっかりと根付いているのが旧暦8月15日の中秋節です。秋の収穫を月に感謝し、丸い月が豊作や家庭円満を象徴するめでたい形とされ、名の通り月の形をした月餅を皆で食べます。レストランから参加者全員におみやげとして月餅が渡されました。

パーティーは戒田真幸会長の開会挨拶で始まり、伊藤紀美子副会長の音頭で乾杯した後、お酒飲み放題のパーティー特別料理と全員に景品（特別賞/キャセイ航空提供香港往復ペア航空券）が当たるラッキードロを楽しみました。田中副会長の閉会挨拶で終了しましたが、



中秋節パーティー

初めてパーティーに参加した会員を壇上に呼んで自己紹介してもらい、交流がさらに深まりました。

ついて誠実丁寧に話され、参加者一同が感銘したセミナーになりました。

### 法人会員交流会開催

当協会では協会役員と法人会員の交流・懇親目的で法人会員交流会を年に2回実施しています。2019年1回目の交流会は去る7月29日に中華料理「錦城閣」で開催され、これまでで最高の28名が参加し盛会でした。

食事に先立って、昨年の5月にベトナムのホーチミン市で開催されたアジアフォーラムに参加した山本辰久理事に豊富な写真でアジアフォーラム参加報告をしてもらいました。当協会では毎年アジアフォーラムに理事が参加して全国連合会の活動状況を総会で報告し、アジア各国の協会役員達との交流を深めています。去年は国際ビジネスコンサルティング業務で活躍している山本辰久理事と田岡敬造理事が参加し、アジアにおける人脈づくりに注力しました。

### 昼食セミナー開催

会員と協会役員との交流・懇親を目的に、9月12日に米国ロサンゼルスで超有名な人気レストラン「Lawry's The Prime Rib, Osaka」で昼食セミナーを開始し20名が参加しました。美味しいロースト・ビーフの昼食を楽しんで交流した後、当協会の理事で（株）ビジネス・リスク・マネジメント研究所の代表の鈴木和巳氏に「現在の国内外情勢における金融リスクを考える」と題した講演をしてもらいました。

鈴木氏は、外資系銀行に永年勤務されて、2007年に現在の会社を設立され、同志社大学などの講師や関西日加協会、日中発展協会などの理事をされて活躍中です。ダイナミックに変化する金融業界の現状と潜在的リスクについての的確で興味深い話をしてくれました。協会役員と会員の交流も活発になされて有意義な会合でした。

### 文化部セミナー開催

2019年11月1日に香港貿易發展局大阪事務所セミナー室で、当協会法人会員のホテル ラ・スイート神戸ハーバーランドの総支配人、檜山和司氏を講師にお迎えし、「おもてなしの精神と接客技能について」と題した文化部セミナーを開催して22名が参加しました。

同ホテルは人気トップランキングのホテルです。檜山氏は三ツ星レストランやホテルで永年活躍され、1996年におもてなしのプロ日本一を決める第1回メートル・ド・テルコンテストで優勝されました。

その後、ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランドの総支配人として立派な業績を挙げられ、全日本メートル・ド・テル連盟会長として後進の指導、ホテル・レストラン業振興に多大な貢献をされたことが評価されて、昨年春にめでたく黄綬褒章を受章されました。

檜山氏は、講演の中で、欧州貴族のおもてなしである「メートル・ド・テル」、ご自身の精進されてきた経緯、日本のおもてなしの強みと、欧州との相違点、優秀なサービスパーソンに求められる素養、レストランでの実践事例、華麗なるパフォーマンスとおもてなしなどに



文化部セミナー

### 香港ビジネスセミナー（京都）開催

去る10月18日に京都商工会議所において香港貿易發展局と関西日本香港協会共催で香港ビジネスセミナーを開催し47名が参加しました。

講演1では、法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授の松田庄平氏が「グレーター・ベイエリアと今後の日本企業のビジネス展開」をテーマに講演し、講演2で香港貿易發展局大阪事務所次長の田中洋三氏が「香港の概要と香港人の気質について」と題した講演をしました。京都商工会議所と提携した香港ビジネスセミナーは今回が2回目で今年も実施する方針です。



中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

## 秋季セミナー「香港から世界を目指している日本人」開催

令和元年の秋、関東を直撃した台風15号や記録的な大雨で甚大な被害をもたらした台風19号。そのニュース、映像はけっして他人事ではなく、ここ愛知県でも各種イベントの中止が相次いだ。中京日本香港協会も恒例の「ワールドコラボフェスティバル」を開催中止とした。各方面への協力を依頼し、提供品、香港のPRパンフレットを用意していたが、日本香港協会やキャセイパシフィック航空から提供されているものは、今後のイベントで配布することにした。過去の被害経験を想起させば、東海地方を襲った伊勢湾台風だが、経験した人は既に70~80歳の高齢となり、惨劇の跡だけが歴史を刻んでいる。

さて、中京日本香港協会もこの11月で153回理事会（各奇数月）を迎えた。東海地区（愛知県、岐阜県、三重県）を中心に1990年に設立された当協会は地域の情報を提供してきた。今も若いメンバーを増やそうと働きかけているが、入会、退会といった繰り返りで、こうした若年層の開拓はビジネス+娯楽性が必要とされるようだ。そこで今回、香港の食と酒のトレンド発信地“Sake Central”の共同経営者である永井憲氏を招聘し、「香港から世界を目指している日本人」をテーマとしたセミナーを開催。若い世代の香港進出が注目される今、将来

海外進出したい中小企業にヒントを与える企画となった。セミナー参加者38名を前に、永井憲氏はエネルギーに講演。終了後の、参加者の名刺交換の様子は、今回のセミナーの成果を大いに感じるものとなった。

その後、今回参加した日本貿易振興機構、情報センター、名古屋商工会議所、中部経済連合会、東海中貿易センターなど各界の責任者との会合する機会があった。愛知県と人口がほぼ同じである香港と日本との輸入、輸出の貿易アンバランスや、この5年間で訪日香港人が3倍というデータ（JNTO）から、香港貿易発展局を通じて愛知、岐阜、三重の中小企業の海外進出を手助けし、ニーズを掘り起こしていこうと改めて感じた。

そしてまた、連日の香港に関する報道を憂慮している我々としては一日も早く安心して訪問できる姿を見たいと願う。



エネルギーに講演する永井憲氏



“Sake Central” の紹介を熱心に聞き入る参加者



## 九州日本香港協会 事務局

## 令和元年度通常総会・講演会・懇親会を開催

2019年10月4日(金)10時30分より福岡商工会議所にて「令和元年度通常総会・講演会・懇親会」を開催致しました。通常総会では、39名(委任状出席含めて)出席のもと、第1号議案の平成30年度事業報告および収支決算について、第2号議案の令和元年度事業計画(案)および収支予算(案)について満場一致で可決されました。

総会終了後、九州日本香港協会会員でもあり、渡邊大輔有限公司の董事総経理である渡辺大輔氏に「最近の香港と私」というテーマでご講演を頂きました。講演では、現在日本でも連日ニュースになっております大規模デモや抗議活動の現状、また、その発端となった「逃亡犯罪人条例」の改正をはじめとした批判や問題点と香港政府の見解についてお話を伺いました。また、香港情勢が香港経済に与える影響についても多角的な視点から説明を受け、香港に進出している日系企業への影響についてもお話を頂きました。

講演に引き続き、懇親会が行われ、参加者間で香港の現状やそれに対する日本への影響、また将来的な香港と九州との関わりについて活発に意見交換がなされ、盛会裏に終えることができました。

## 香港城市大学専上学院 福岡夏季研修プログラムの開催

九州日本香港協会では、毎年、香港城市大学専上学院の学生向けに夏季研修を開催しています。このプログラムは福岡県香港事務所からの相談を受けて始まった事業で、昨年は7月8日(月)～8月1日(木)の約1か月間、8名(男性4名、女性4名)の学生を受け入れました。今回の学生は全員、応用日本語学科の学生だったため、日本語ができるのはもちろん、日本の文化体験や生活に非常に興味を持っていて、熱心に研修に取り組んで頂きました。



香港城市大学 着物体験

研修内容としては、大きく4つ、①日本語授業、②文化体験、③企業訪問、④ホームステイを行いました。

①日本語授業では、最初にテストを行い、学生の日本語レベルを把握した後、学生のレベルに合わせて12回の授業を行いました。筆記の勉強だけでなく実践的な会話の練習を行うことで、最初は日本語を話すのに戸惑いがあった学生も、自ら積極的に話しかけてくれるようになりました。

②文化体験では、浴衣を着て櫛田神社の散策や、お茶体験、博多織体験、博多山笠の見学、太宰府天満宮の視察、ソフトバンクホークス試合観戦を行いました。どれも九州・福岡を代表する施設や文化を体験する内容となっており、特に香港では野球チームがなく、野球の試合を一度も見たことがないとのことで、福岡のホークスファンの熱気に圧倒されていました。

③企業訪問では、明太子ふくやのハクハク工場、博多座、福岡県警、福岡県庁、福岡市水処理再生センター、福岡市防災センターを訪問しました。博多座では、普段見ることのできないステージの裏側を見せて頂き、学生たちは大きな舞台に目を輝かせていました。また、福岡市防災センターでは、地震の体験をすることができ、これまでテレビの中だけであった地震を実際に体感することで、改めて地震の怖さを知る貴重な経験となりました。

④このプログラム一番の目玉であるホームステイでは、毎年大刀洗町の皆様に2泊3日で受け入れを頂いています。そのホームステイ期間中、大刀洗町では「枝豆収穫祭」のイベントが行われており、学生たちも終日参加して、枝豆をゆでる作業や販売のお手伝いを通して、大刀洗町の皆様と交流を図りました。3日間という短い時間ですが、ホームステイの家族との最後のお別れでは涙を流す学生がいるほど、とても充実して濃い3日間を過ごすことができました。

このプログラムを通して、学生たちにとってひとつでも忘れられない思い出や経験ができ、将来のキャリア形成に繋がる一助となれば、私たちも大変嬉しく思います。そして、今年以降もこの研修を継続していくために、種々改善を行いながら、より良いプログラムとなるよう努めてまいりたいと思います。



香港城市大学 修了式

# YAMAGATA

山形日本香港協会


**山形日本香港協会 会長 大沼 みずほ**

## マーガレット・フォン香港貿易発展局 総裁との交流会を通じて

2019年10月1日、東京にてマーガレット・フォン香港貿易発展局総裁との交流夕食会に招かれ、総裁と現在の香港の情勢、今後の日本・香港関係について、参加者の皆様と意見交換する機会を頂きました。

香港が中国に復帰し、20年以上が過ぎた今、私が香港に駐在していた頃とまた違う社会の大きな波が来ているように感じます。私が香港にいたのは、2006年から2008年の2年間で、在香港日本国総領事館の専門調査員として、主に日中関係、中国の内政・外交を分析する仕事をしていました。

当時の中国は、胡錦濤国家主席時代。「和谐社会」(調和社会)がキーワードとなり、「党内民主」という言葉が盛んに語られ、民主化についての研究が中国国内でも盛んに行われていました。自民党55年体制を含め、日本の民主政治についての研究はその主たるものであり、いかにして、民主的な方法で一党の支配を継続できるのか、すなわち、自民党を研究することで、民主化された社会の中でも、中国共産党の一党独裁をどのように維持することが可能かの研究がなされていました。

一方で、香港における普通選挙の実施については、中央政府はまだまだ後ろ向きであり、党内民主の議論が盛り上がる中であっても、普通選挙の実施にはハードルは高く、多くの香港人もまた、政治よりも経済発展による豊かさを享受することに力点が置かれ、民主活動は一部の知識人や民主派の政治家に限られていました。さらには、自分達のアイデンティティーもまた、「中国人、香港人」「中国香港人」という認識

の方々が多かったように思います。

しかし、現代の若者達は、明確に「香港人」というアイデンティティーを持ち、一国二制度がこのまま続くのかという不安を背景に、民主化に対しても、完全なる普通選挙の実施を求め、そのデモ活動は日に日にエスカレートしています。

山形県にとっても、農作物輸出先第三位、そして香港からの観光客は、台湾や中国、台湾に続き、四位という香港は、われわれにとって重要なビジネスパートナーです。さらには、米沢市は、香港の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンであり、中高生のフェンシング大会が行われるなど、スポーツ交流も盛んに行われています。香港における「一国二制度」の維持と経済的・政治的安定なくして、山形、日本と香港とのいい関係も築けません。この記事が掲載される頃には、香港に平穏が取り戻され、活発な経済活動、文化・スポーツ交流、観光客誘致が進んでいることを心から願います。



(撮影：小柳淳)



## 北海道日本香港協会 事務局

## アグリ・フードプロジェクトと香港貿易発展局セミナー

2019年10月23日・24日に札幌で開催された「北海道アグリ・フードプロジェクト」に香港貿易発展局がブース出展するとともに、24日には会場内においてセミナーを開催しました。本展示会は、農業を起点とした食のバリューチェーンに関わる全ての関係者が札幌に集う年に一度のイベントとして2017年から開催されているものです。

セミナー「日本食の最大の輸出先－香港市場の魅力とゲートウェイ機能」では香港貿易発展局伊東東京事務所長より香港貿易発展局の紹介に続き、香港に向けた日本食品の輸出について多くの事例を交えてご説明頂きました。大変わかりやすく有意義な内容で、多くの参加者が講演に聞き入っていました。

また、セミナー開催前日には、香港貿易発展局の伊東所長、後藤マーケティング・マネージャーを囲んでの交流会も行われました。交流会には、香港とのビジネスに取り組む道内企業や関係団体が参加。北海道日本香港協会からは永島副会長にご参加頂きました。香港とのビジネスに関する活発な意見交換が行われる有意義な機会となりました。

当協会では引き続き、香港と北海道の経済、文化交流促進に取り組んでまいります。



セミナー開催前夜の交流会。一番右奥が永島副会長



香港貿易発展局のブース

## 「香港の最新情勢と食ビジネス環境の展望」セミナー

12月9日(月)札幌において、北海道、ジェトロ北海道、フード特区機構の主催による「香港の最新情勢と食ビジネス環境の展望」と題したセミナーが開催されました。

講師はJETRO香港事務所の高島所長で、香港への食品輸出に関する情報だけでなく、香港の最新の政治・経済情勢について、一般的な報道では伝えない現地の生の情報を講演頂きました。また、講演終了後には北海道日本香港協会事務局にもお越しいただき、北海道への直接投資や観光旅行者の動向など、様々な分野に関する意見交換を行いました。

当協会では引き続き会員の皆さまに様々な香港現地にに関する情報提供に取り組んでまいります。



講演される香港貿易発展局 伊東所長





## 秋田県「竿燈祭り」研修会開催

2019年8月5日(月)～6日(火)と、東北三大祭りの一つ「秋田竿燈祭り・男鹿観光ツアー」を開催し、事務局を含め20名の女性部会会員が参加しました。間近で見る竿燈の迫力は、お囃子太鼓の音色と共に、ろうそくに火を灯した竿燈の光が一行に連なり並ぶ様は圧巻、米俵に見立てた「流し・平手・額・肩・腰」の5つの妙技は豊作を祈り軸足と竿燈が一直線、堤灯46個重さは50kgを担ぐ男性、そして可愛らしい子供達に、女性部会の皆さんもアッと驚き、ドッコイショー、ドッコイショーと掛け声をかけて楽しみました。

次の日は男鹿市内へバスで移動し、男鹿半島の景勝地として名高い入道崎や、ユネスコ無形文化遺産に登録された“なまはげ”習俗の体験ができる伝承館などを見学しました。民俗行事（大晦日）として地域の人々の手によって受け継がれ、次世代へと継承されている東北の伝統が、世界に誇れる唯一無二の文化であることを実感いたしました。

お天気にも恵まれ、初めて見た人も多く、非常に充実した有意義な研修となりました。



勇壮な秋田竿燈です



「なまはげ」大きいですね



参加者の皆さん楽しそうですね

## 秋の文化教室「中国茶教室」開催



中国茶教室の会場風景

2019年10月21日(月)、「中国茶教室」を開催し、15名の女性部会会員が参加しました。講師は女性部会会員でもある荒川フェニー瑞玲先生。飲茶（ヤムチャ）の本場・香港では、菊と緑茶をブレンドして飲むお茶などもあるそうです。中国茶は発酵度合いなどにより緑茶・白茶・青茶など7つの種類に分けられ、日本でも人気の烏龍茶は「青茶」に分類されるそうです。

お茶の種類により、淹れるのに適した温度など様々な違いがありますが、日本茶との大きな違いはなんといってもその香りです。当日は荒川先生ご持参の本格的な中国茶器でお茶を楽しみましたが、女性部会会員の方々の中には「香りが良い、とても美味しい」として3～4杯もおかわりする人が沢山いるほどでした。

この日はお茶受けのお菓子として、香港で冬至の日に食べる「湯圓（湯丸）」を作って食べました。きび砂糖で作ったシロップに、生姜をたっぷり擦って頂きます。お菓子を作っている間も、楽しいおしゃべりに花が咲きました。



荒川先生の講演



## 沖縄日本香港協会 事務局

### 沖縄日本香港協会通常総会開催

令和元年度沖縄日本香港協会通常総会が10月28日(月) 沖縄ハーバービューホテル・クイーンズルームで開催されました。平成30年度事業報告および収支決算、令和元年度事業計画および収支予算が承認されました。事業計画および収支予算では、香港貿易発展局が主催する展示会等への参加の促進、香港フォーラム参加者の強化を目的として、香港フォーラムの登録料の事務局助成が本年度も承認されました。



沖縄日本香港協会通常総会

沖縄日本香港協会通常総会終了後、同ホテルにおいて、昼食セミナーが開催されました。講師には、香港貿易発展局大阪事務所長のサミュエル・チェン氏をお招きし、講演を頂きました。

会場からは、民主化要求のデモに対する懸念や区議会議員選挙後の特別行政区の動きなどに質問がありました。「確かにデモの影響があるが、ビジネスは通常通り行われている」と答えました。

「8月のフードエキスポや香港貿易発展局が主催する展示会は通常通り開催され、多くの参加者がある」と語り、香港での各種フェアやエキスポの参加を強調されました。



サミュエル・チェン氏昼食セミナー

### 港珠澳大橋体験

2018年10月24日に香港とマカオ、珠海を結ぶ港珠澳大橋が開通しました。

港珠澳大橋は、グレーター・ベイ・エリア (GBA) 構想を、見える形で支える重要なインフラの一つです。

GBA構想とは、広州・香港・マカオの連携の連携を通じて一大経済圏を構築し、2030年までには、この地域が製造、金融、ITの中心地的かつ最先端地にする構想で、ニューヨーク、東京などの沿岸部に隣接する世界の大都市に匹敵する経済圏を目指すものです。

GBAの範囲は中国全体の1%に過ぎず人口も中国の総人口の5%足らずですが、中国の国内総生産 (GDP) の約15%を生み出しており、世界での有数の経済圏となっています。また中国が掲げる一帯一路経済圏構想の起点としても重要な役割を担っています。今回、このGBAを体現する港珠澳大橋を实际利用して、マカオを訪れました。

香港島から公共バスにて大橋香港口岸のバスターミナルまで移動しました。香港国際空港のターミナルから2キロメートルほど離れているとの事でしたが、空港からのバス移動は5分ほどかかりました。

大橋香港口岸のバスターミナルでは、出国審査を受けた後、バスのチケットを購入、バス乗り場へ向かいました。バスは頻繁に出ていますが、乗車したバスは満席で出発しました。

バスは出発直後、普段見られない香港国際空港の貨物エリアおよびターミナルを見ながら大橋を進みます。大橋は片側3車線あり、現在は指定車両とバスしか通行できないため、交通量は少なくスムーズで、約40分でマカオ側のバスターミナル澳門口岸に到着します。

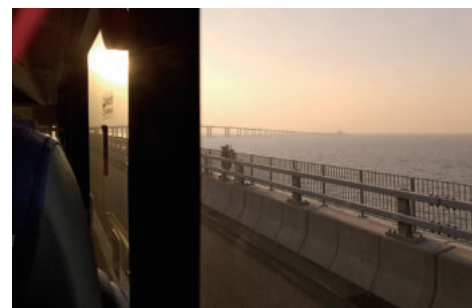
開通して1年を経過していることと、平日ということもありマカオの入国審査もならぶことなく通過できました。

しかし澳門口岸のバスターミナルは、フェリーターミナルのような、大型カジノ施設向けの無料シャトルバスは無く、大型カジノ利用者にとって利便性は高くはないと感じました。大橋のシャトルバスの料金は65香港ドルで、ジェットフォイルよりは低額に設定されていますが、香港国際空港のターミナルで乗り換えが必要など、陸上交通としての優位性は未だ充分発揮されていないと感じました。

今後、タクシー・ハイヤー等の公共交通機関の乗り入れや貨物等の物流ラインとして活用されれば、GBA構想を更に推し進めるものと期待されます。



香港側のバスターミナル



車窓からの大橋の眺め



広島日本香港協会 事務局 木村 将隆

## 香港ビジネスセミナーの開催

広島日本香港協会では、より効果的な運営を図るために、会員の関心の高い、「観光インバウンドビジネス」、「香港の経済動向」及び「海外企業とのビジネス連携」をキーワードに、令和元年9月17日(火)に公益財団法人ひろしま産業振興機構と共催により、「香港ビジネスセミナー」を広島市内で開催しました。

第1部では、株式会社NNA香港編集長安田祐二氏により、「香港経済の現状と中国との経済協力について」と題して、現在の香港の抗議活動に関わる社会混란の状況と、香港経済への影響について、また、中国・広東省、香港、マカオの経済協力を強化する「粵港澳大湾区（グレートベイエリア）」構想について講演いただきました。

香港情勢については、参加された多くの方が関心を示しており、香港における抗議活動の発端から、現在に至るまでの過程のほか、香港経済への影響について、香港を代表する4つの部門を中心に「小売業界」、「観光」、「香港株式市場」、「不動産市場」のそれぞれの動向について詳細に解説していただきました。

さらに、香港で生活する上での注意点や、現場取材から見えてくる抗議活動の変化を、実際に街に出て取材したときの動画や写真を用いてご紹介いただきました。

現地で活動されている安田講師の目線から見えてくる香港の状況について、抗議活動が行われている場所と、そうでない場所では大きく様相が違っているとの説明に、参加者は高い関心を示しました。

また、今後の香港の役割について、中国・広東省、香港、マカオの経済協力体制「粵港澳大湾区」構想についてご紹介いただきました。同構想において、この一帯は、世界有数のベイエリアとして世界級都市群を形成し、国際的な競争力と影響力を一段と強めるため、研究開発センターや知的財産権の保護・運用を推進していくとされており、より一層のイノベーションの推進がポイントとなることが紹介されました。

この構想の実現のために、ベイエリア内各都市の役割も明確であり、香港は国際的な金融、水上輸送、貿易セ

ンター、国際航空ハブとしての地位強化はもちろんのこと、アジア太平洋地域の国際法律・紛争解決サービスセンターとしての役割を担っていくことが紹介されました。

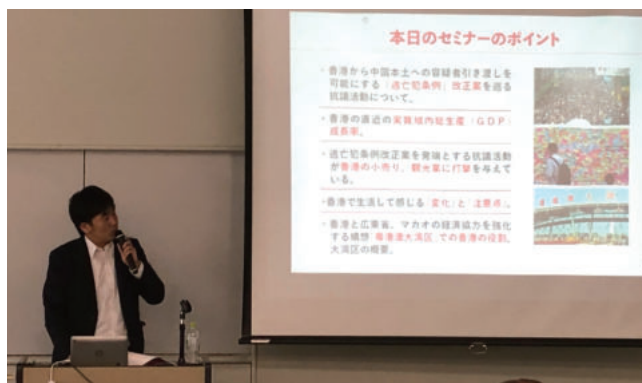
第2部では、マインドフリー株式会社・ペイサー株式会社代表取締役レオン・メイ・ダニエル氏により、「中華圏（香港・中国大陸・台湾）のトレンドと訪日インバウンドマーケティング施策」と題して、増え続ける訪日外国人旅行者へのインバウンド対策として、国籍別で上位を占めている中華圏の特徴をご紹介いただき、それぞれの地域に応じたインバウンド対策をご紹介いただきました。

特に、訪日外国人の旅行における行動について、出発前における訪問先の情報取得方法については、ソーシャルメディアの活用が重要であり、香港、中国大陸、台湾のそれぞれの地域の特長や考え方、現地の習慣を知ることの大切さを紹介いただきました。日本人と世界の考えには違いがあることを知るきっかけにもなりました。

情報の発信方法については、地域別にどのようなSNSが一番利用されているかなど、特徴を知ったうえで、その地域に一番適した情報発信ツールを活用することが、より効果的に情報を発信できることが紹介されました。やみくもに情報を発信するのではなく、香港人、中国人、台湾人のそれぞれの考え方やとらえ方が違うため、相手がどのような情報を求め、どのように発信すれば受け入れられるか、戦略的に対応することが必要であることを学びました。

このセミナーを通じ、参加者より、「本当の香港の動向を知る事ができた。」「香港のデモについて現地の状況や、危険度がよく理解できた。」「WeChatの利用について、もっと本格的に、実施する必要があると感じた。」「外部からは知る事が難しい、中国や、香港の人の情報交換方法について知れて、貴重な話をお聞きできた。」などの意見が寄せられ、両セミナーを通じ、香港の現状と、中華圏における、情報発信の取り扱いについて詳しく学ぶことが出来たセミナーとなりました。

今後も、香港貿易発展局や、関係機関と連携し、皆様により良いビジネスサポートができるように努めてまいります。



安田祐二氏の講演



レオン・メイ・ダニエル氏の講演





## 新潟日本香港協会 事務局長 田中 湖雄

### 待望の香港直行便が新潟にも就航

2019年10月30日、ついに新潟にも香港との直行便が初めて就航しました。キャセイドラゴン航空が水曜日と土曜日の週2便香港国際空港と新潟空港を300席程度のエアバスで結びます。初便には新潟から218人、香港から188人の方が搭乗しました。初便到着日には新潟市内にて新潟県側の空港、観光、経済界、行政などの関係者との交流会も盛大に行われました。

今回は来年3月28日までの約5ヶ月間の季節運航ですが、新潟県や新潟日本香港協会としては夏季定期便も含めた通年化を目指しています。その通年化ですが実現に向けてはいくつかの課題があります。

一つは香港のデモ活動の収束の兆しが見えてこないということです。これは新潟からのアウトバウンドはもちろんのこと、長い目で見ると香港からのインバウンドにも影響を及ぼすことになると思います。香港からは「新潟は自然や温泉、冬のスキー、コメや日本酒など魅力が満載だ」との評価を受けていますが、今のデモ活動が一日でも早く収束することを切望するばかりです。

次に、就航初便こそ香港からのお客様より新潟から香港への搭乗者が多かったようですが、その後の搭乗者の傾向は香港からのお客様が多く、新潟からの搭乗者が極めて少ないということです。新潟からのアウトバウンドはまだまだ観光需要が主体で、前述したようにデモ活動等の影響から来る香港での状況にまだまだ不安を抱いているのが現状です。実際に私も香港フォーラムの時に香港を訪れましたが、私たちの行動範囲ではデモの形跡を見ることはほとんどありませんでした。もちろん全てにおいて安全ということはないかと思いますが、日本でのニュースの情報だけではただ不安を煽るだけのようにも思えます。

国際定期空路の中長期的な維持のためには、インバウンドとアウトバウンドがバランスのいい構成で続いていく必要があります。もともと新潟県は海外渡航率が全国的に低い方の県で、今の香港の状況とは別にこの課題をどうするかが、新潟・香港便の通年化やその継続に欠かせない条件となるかと思えます。

香港そのものを目的に搭乗することはもちろんですが、近隣のマカオや中国の深圳や広州などのグレーターベイエリア（GBA）などへのゲートウェイとしての香港国際空港の利用も見逃せません。また、キャセイドラゴン航空がキャセイパシフィックグループという強みを活かして、アジア有数のハブ（拠点）空港としての香港国際空港経由でヨーロッパや南半球などへの渡航も新潟・香港便の通年化や路線維持のために大いに役立つことと思えます。

更にもう一つは、人の行き来と共に香港への航空貨物を増やすことです。新潟県産米や新潟県特産の日本酒は船便を利用することも多いと思いますが、その他にも香港人が好むイチゴの越後姫やルレクチェ（洋ナシ）などの新潟のフルーツや鮭（サーモン）など新潟が誇る「食」、海外から高い評価を受けている燕三条の洋食器や刃物などが沢山あります。航空便の貨物室をスーツケースだけで埋めるのでは芸がありません。



エコノミークラス機内食



新潟就航したキャセイドラゴン航空（香港国際空港）



## 高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

明けましておめでとうございます。  
新年好！

新年の挨拶に入ります前に、昨年より香港を取り巻く様々な社会問題に対しまして、国内の関係者はもとより、高知日本香港協会会員の多くも大変心配をしております。一日も早い正常化がなされます事を心よりお祈り申し上げます。

改めまして、2020年、明けましておめでとうございます。

2019年は高知日本香港協会にとって、文字通り飛躍の一年となりました。2018年の香港フォーラムにて当協会の森本会長がサクセスアワードを獲得した経緯もあり、2019年はセミナーやビジネスツアーを中心に、会員拡大に大きな力を入れた一年となりました。お陰さまで、2019年12月の香港フォーラムにおいて、アウトスタンディング・メンバーシップ・アワードとして、アジア・オーストラリア地区におけるグランドプライズならびにパーセンテージ・インクリーズ・アワードをダブル受賞いたしました。3年連続のアワード受賞は本当に嬉しいこととございます。全国連合会の皆さま、また各地協会の皆さまからのアドバイス、そして何より協会の理事をはじめ会員一人一人が、セミナーやツアーへの動員を積極的に行っていただいたお陰でございます。改めまして関係する皆さまに対しまして心から感謝を申し上げます。

また8月の事務局長会議におきましては、参加された各協会の皆さんから高知での取り組みについて多くのヒアリングをいただき、僭越ではございましたが、いろいろとお伝えさせていただきました。当協会の取り組みが注目をされている事は、私どもにとっても大変喜ばしいこととあります。

2019年10月には、当協会の取り組みに注目をした、

高知市議会議員、経済文教常任委員会の方々が香港貿易発展局東京事務所へ伺いました。高知には生産量や消費量が日本屈指の農水産物も多く、生産者や関係する業界の今後のビジネスチャンスとして、香港貿易発展局並びに日本香港協会との繋がりは大変重要な位置づけになるものと、高知市議会はもとより、高知市の行政も認識をされた視察研修となったようで、ご講演をいただいた、香港貿易発展局日本首席代表サイラス・チュー氏、並びに東京事務所長伊東正裕氏には、大変お忙しい中ご対応いただきました事、心より感謝申し上げます。

11月20日には、「香港ビジネスセミナー」を企画し、森本会長が経営する「5019PREMIUM Factory」の香港オーナーである辻本崇一郎氏をお招きし、香港店オープンまで軌跡やご自身の経験、また香港の現状などのご講演を賜りました。

辻本氏は、日本と香港を結ぶ某貿易会社の香港支社にご勤務されていましたが、高知との深い縁を築かれ、その後独立し起業。現在は店舗経営をされながら前職で得意とする貿易関係の仕事も手掛けられています。こういった多様な経験から、海外でのビジネス展開、特に香港を起点とするアジアへの展開について、ご自身の経験談や心がけること等、分かりやすく楽しくご教授いただきました。参加した当協会の方にとっても非常に実りのある時間となり、香港ビジネスに対する意識の向上、また海外にてビジネス展開をする際、人脈の繋がりによる安心感も抱かれたことと思います。

本年も積極的にセミナーやツアーを企画し、高知の皆さんに香港の魅力を伝えて参ります。

さあ！2020年はオリンピックパラリンピックの開催も控え、世界各国から注目をされる一年となります。この良き流れを逃さず、当協会も盛り上げて参ります。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



香港ビジネスセミナー



森本会長(左)と辻本氏(右)



# 飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030  
〒541-0052 大阪府中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜斎内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階  
地域企業連合会 九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310  
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2  
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西  
(株)Sola.com内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758  
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400  
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001  
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階(愛宕商事株式会社内)

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570  
〒780-0842 高知市追手筋2-6-9 大手門ビル3階西  
株式会社オルトル内

 HONGKONG AIRLINES

# 日本7都市から香港へ

\*東京、大阪、札幌、岡山、米子、鹿児島、沖縄

真心を込めたおもてなしでお迎えします

